

# 三水会会報

北里大学水産学部  
同窓会会報  
第 20 号

平成 2 年 9 月 15 日発行

編集者 大野 良樹

発行 三水会（北里大学  
水産学部同窓会）

事務局 〒246 神奈川県横浜市  
瀬谷区瀬谷5-22-1石井方  
☎ 045-303-3135

振替口座 第一勧業銀行  
大手町支店  
008-1182388

水産学部を退職して（前水産利用学講座教授 太田静行）

研究室紹介 ① 水産資源化学講座（神谷久男教授）

② 基礎生産学講座（平野禮次郎教授）

関東地区懇親会に参加して（5F・久永 浩）

三水会セミナー「鮭鱒流通の問題点」に参加して（3A・長谷川一敏）

ラグビー部OB会発足（4A・成田昌明）

第17回水産学部体育祭（体育祭実行委員長 熊坂隆志）

平成 2 年度三水会総会開催

三水会代議員の改選について

事務局だより

- 市場・流通関係会員親睦会の開催
- 同期会等の助成について
- 通信販売のお知らせ

- 通信販売主の募集
- カンパのお願い



子供達のマスつかみどり風景（7月29日）

ラグビー部OB会発足パーティー（5月3日）



# 水産学部を退職して

前水産利用学講座教授 太田 静行



〈A：太田先生近影〉

永い間、三陸で皆様と一緒に過ごしてきましたが、私は今年の三月に北里大学を定年退職して、自宅に戻りました。十六年間、三陸町にいたこととなります。

北里大学水産学部が設立されたのが昭和四十七年で、教養部を卒業して、二年生として学生諸君が三陸に移って来たのが昭和四十八年四月です。私は昭和四十八年は「水産有機化学」の講師として月に一度集中講義で行っていました、四十九年四月に教授として赴任しました。第一回の卒業生諸君が教養部で化学実験をしているところを見に行つたことがあります。四十八年四月の開学式にも参列しましたから、卒業生の皆様とは、第一

回生の諸君から、今年卒業の諸君まで、三陸で諸君を二年生として迎え、卒業生として送り出したことになりました。いろいろとなつかしい思い出があります。卒業式で諸君を送り出したあとの取り残されたような淋しさなどは今でも思い出されます。

## 三陸を離れた日

三月十六日に卒業式がありましたので、このあと、引越しの準備をして、荷物を十九日に出したあと、三月二十日に三陸を離れることになりました。写真Bのような大漁旗を三陸町柔道協会の皆様がわざわざ私のために作って下さいました。この旗には祝太田丸と染め込んであります。この大漁旗を持って、裏の出口のあたりから、正面玄関の前の私の車のところまで歩きました。在学生諸君、教職員の皆様と三陸町柔道協会の皆様が見送ってくれました。写真Cは自動車に乗り込んで出発する直前のものです。この赤いレオナーネは三陸で八年間乗っていますが、家に戻ったあと、置場がないので廃車にしま

した。この車にとってもこれが最後の写真です。

## 四月から

四月十三日に白金の本館で、理事長先生から「北里大学名誉教授」の称号記をいただけてきました。四月からひまになつて退屈な日が続くかと思つていましたが、「うちを手伝わないか」と誘ってくれる方々がありましたので、毎週、火・水・木は以下のようなところにかけています。

●火曜日は「東洋エレメント工業」の開発部。ここは自動車専用のエレメントが専門のところですが、自動車以外の部門にも進出したいという

ことで、今はオゾン発生機を扱い、食品工場の脱臭、殺菌などを付けています。連絡先は、左記のとおりです。

〒213 川崎市宮前区菅生一 一八十八

TEL 〇四四一九七七一五五七一

開発部は溝の口駅のそばの神奈川サイエンスパーク（略してKSP）にも研究室があり、この電話番号は〇四四一八一三〇六一です。

●水曜日は午前中、世田谷区池尻にある「東京栄養・食糧専門学校」に講義に行っています。「食品加工学」を栄養士の卵に講義しています。北里学園が新潟県の浦佐に保健衛生専



〈B：三陸町柔道協会よりいただいた大漁旗〉



〈C：三陸を発つところ〉

門学院の栄養科を新設する時に、ここに大変にお世話になったので、その御礼のつもりで、講師をつとめています。

●木曜日は「サンアイ化学工業」の研究室に行っています。ここは食品添加物全般のほか、製菓材料、果汁などを扱い、ここにいと、食品やその材料の生きた勉強ができます。  
〒170 豊島区巢鴨一―二―五

サンアイ化学工業(株)研究室

TEL〇三―九四七―一八三

卒業生の皆様が新製品の開発などで相談がありましたら、私の自宅かここに連絡していただきたいと思えます。

●金・土・日・月は原稿を書いたり、自分の好きなことをするために空けておきましたが、月に一回でいいから来てほしい」などといわれて、仙台の「青葉化成」や東京赤羽の「カルビー」などに話をしに行っています。以上のように四月以降も結構忙しく過しています。水産学部にいたときよりもよく働いているくらいです。

卒業生諸君が退職後の私のことを心配してくれて、いろいろな所から声をかけて下さることは本当に嬉しいことで有難く思っています。

糖尿病が持病になり、アルコールが禁止なので、宴会でも私は牛乳やお茶を飲んでいて、つきあいがわるくなっています。日常の生活に特に支障はありません。近況として、

ここにある写真Aは最近のもので、昭和六〇年前に卒業した諸君からみると、随分やせた感じがするとおもいます。お医者さんの指示により、体重を七〇kgくらいから、五八kgまで、数年間かかって減らしたので、体重が減った分だけ動きやすくなってお陰様で元気です。

私の家は、子供達が皆独立しましたので、家内と二人だけになりました。孫は四人になりました。私の住所は

〒214 川崎市多摩区生田八―二―八

TEL〇四四―九三三―八二二五

昼間はでかけていることが多いけれども、夜はたいがい家にいます。

五月十九日には研究室の卒業生諸君が、また二十日には三水会の有志の皆様が祝賀会を開いて下さって、お陰様で、卒業生の皆様の元気で活躍の様子を拝見できました。

三陸をはなれて東京に戻ってきまして、これからは、同じ三陸で過した同志ということで、相変らぬご好誼をいただきたいと思えます。

## 『水産衛生学』から『水産資源化学』へ

水産資源化学講座教授 神谷久男

一部の三水会会員諸兄弟は前回の水産学部便りでご承知のことと思いますが、「水産衛生学講座」は平成二年度より「水産資源化学講座」に衣替えを致しました。水産衛生学講座

は有毒成分や重金属など水産食品の安全性と水産生物の生息環境の評価に関する研究教育を目的として学部開設と同時に発足いたしました。昭和五十五年講座主任の佐藤良裕教授のご退任後、現在の講座体制に移行する間、研究内容も重金属あるいは

下痢性貝毒といった水産食品中の有毒成分の分析に関するものから、海洋生物のもつ有毒物質に代表される生理活性物質の有効利用に関する基礎研究に移して参りました。

今回の大学院組織改正を機会に、ここ十年の本講座における研究活動の内容を慎重に検討しましたが、現在の研究活動をさらに押し進めることが水産学部における学部、大学院の教育、研究の体制の強化に、より貢献することが出来るとの結論に達しました。そこで、現状をより具体的に反映させるために、長い歴史をもつ「水産衛生学講座」ではありますが、「水産資源化学講座」と改称することと致しました。これから、水産学における生理活性物質の研究はますます重要な分野に発展することは明かであり、これまで取り組んできた海洋生物のレクチンや抗菌、抗腫瘍物質の研究をはじめ強心物質、付着生物阻害物質、酵素阻害物質、生体防御物質といった生理活性物質に関する研究をさらに発展さ



せ、将来、未利用の海洋生物資源の開発や水産廃棄物の利用に関する基礎研究をリードする講座といたしたいと考えております。

食品学科、とくに水産衛生学講座で卒業論文を作成された諸兄姉には水産衛生学講座の名称が無くなってしまふことはいかにも淋しく、残念なことに思われるでしょう。開学部

## 基礎生産学講座

### 開設にあたって

教授 平野禮次郎



基礎生産学講座は、増殖学科の第五番目の講座として平成元年四月に開設されました。今のところ、講座のスタッフとしては私一人ですが、本年四月より卒論専攻の四年生諸君を迎え、本格的な研究活動に入ったところ です。

「魚はすべて珪藻から」という言葉が端的に示しているように、水界におけるエネルギーの根源は植物プランクトンと藻類によって生産されています。本講座の研究、教育は、水界における低次生産の動的機構を主

以来、講座担当の佐藤良裕教授、斉藤博助手の指導を受けられた諸兄姉の研究の蓄積が『水産資源化学講座』を産んだとお考え戴きたいと切望しております。衛生学から資源化学へ、十八年の歴史を大切にしながら新たな飛躍を図りたいと存じます。三陸来訪の折は、新生、資源化学の研究室に是非お立ち寄り下さい。

対象としていますが、現在とり組んでいる研究課題についてその概要を紹介させていただきます。

プランクトンの異常増殖現象といえますと、魚介類に大きな被害を与える赤潮が特に注目されてきました。これにはもう一つの側面があります。異常増殖という植物プランクトンが潜在的にもつている増殖に対する高いポテンシャルを解明し、それを有効に活用することが出来れば、水域の生産力を必然的に高め得るはずです。しかし、プランクトン

の異常増殖現象に関しては、このような視点からの研究はきわめて少ない現状にあります。

三陸沿岸では、春先にキートセロス、サラシオシラなどを主体とした珪藻の大増殖現象がみられます。本講座では、この珪藻類の大増殖および削減の実態と要因を明らかにする目的で、フィールド調査と実験室での培養実験を併行して行っています。三陸沿岸における珪藻の大増殖は、年によって規模がかなり変動する。ようですが、興味深い知見が蓄積されつつあります。

また、これまでのプランクトン研究は、プランクトンの水中における様相のみに注目してなされてきました。が、今後は生活の場としての海底についても十分に考慮する必要があると思われまふ。具体的には、耐久細胞や増大胞子の形成など生活史の側面にも焦点をあてながら、沿岸プランクトンの動態を明らかにしていく予定です。

わが国における二枚貝類は、ホタテガイ・カキを除いてその生産が伸びなやみの状態にあります。ハマグリを例にとりまふと、消費量の九〇パーセント近くが輸入に依存している状況にあります。一方、アメリカ・

台湾などではウバガイの一種やハマグリ完全養殖に成功し、急激にその生産をのびつつあります。このような状況のなかで、本講座では外海性二枚貝類の管理型生産システム確立を目指して基礎的な研究を開始しました。まず第一段階として、稚貝の中間育成段階で最も減耗の著しいとされている殻長二ミリから五ミリ程度の稚貝について、摂餌生態に関する実験を始めています。各種類の植物プランクトンの大量培養を行い、それらの餌料効果を明らかにするために投餌量と生長・生残の関係を明らかにする予定です。今秋には新しい種苗生産方式の開発にも着手する計画を立てています。その他、海産付着珪藻に関する研究とウニ類精液の凍結保存と利用に関する研究も手がけていますが、講座のスタッフが多ければ、海藻類の生理生態、細胞融合などバイオテクノロジーの分野にも研究を拡大していくことを考えています。

いずれにしましても、基礎生産学は新しい講座であり、皆様方の暖かい御支援を戴きながら研究を進展させていきたいと考えておりますので今後共宜しくお願いする次第です。

## 関東地区懇親会に参加して

久永浩(5F)

昨年初めてこの会に参加させていただきました。その日は、時々小雨のバラつく曇天にもかかわらず、一〇〇人余りの仲間達がいろいろな顔でほんとに楽しそうな一日を過ごしている光景を見ることができ、一日が、予想もしえないほど楽しく、充実した時間を過ごせたことで、もっと早くから参加させてもらえれば良かったと後悔したものでした。

そして待ちに待った今年、七月二



〈関東懇親会〉

十九日、家族ともども首を長くして楽しみにしていた日がやってきました。当日はこの会としては珍しく快晴、私も幾分興奮気味で朝は四時前に目が覚め、現地へも九時過ぎに到着してしまいました。まだ役員の方も誰一人と見えていない様子で、これはちよつとはりきり過ぎたかなとも思いましたが、それほどこの会が私にとっては楽しく意義のあるものだということがいえます。また、ここに参加された誰もが同じような思いで集まってきたのだと思いたいです。今回この手記を書かせていただくことになり、どんな内容でまとめようかという頭をひねりましたが、ここに参加された方よりもまだ出られたことがない方へのメッセージがいいのではないかと、当日の報告は朝までで終わりにし、私なりにこの会や三水会に思うことを少し書かせていただくこととします。

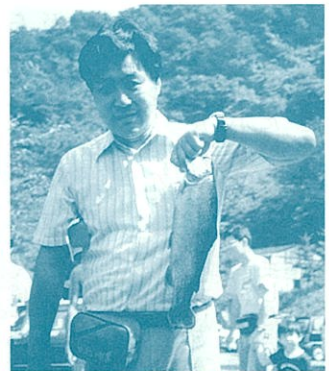
そもそもこうした催しを毎年実施するにあたり、その催し計画などに時間要し、多くの仲間が集まってきたことを考えてみても、他の大

学や学部の人達以上に三陸で過ごした仲間との結びつきというのとはとても強いものであり、時には他から羨ましがられるくらいの強い絆というものを感じさせる絶好の機会がここに用意されていると思います。来年からはさらにもっと多くの参加者が集まるように願っているのですが、私も含めて家族でのリクレーション、昔の研究室、アパートの仲間との再会の喜びだけにとどまらず、さらにこの会の中での交流を広め、何十年後には三水会のメンバーで日本の水産関連の業界を牛耳るくらいに発展していけばなどと、大層なことを考えています。



〈優勝の久永氏〉

最後になりましたが、毎回お忙しい中、会の運営にご尽力されている役員の方々、いつもいつもありがとうございます。私も出来る限りの応援はさせていただくつもりではありますが、仲々お手伝い出来ず申し訳なく思っております。私のこの手記が多少なりとも会の発展につながれば幸いです。追記 我が家の『にじますメニユール』刺身・塩焼き・フライ・ムニエル・ホイル焼きと、とても美味しくいただきました。



〈今回の大物賞：斉藤裕也氏〉

### 三水会セミナー

## 「鮭鱒流通の問題点」に参加して

長谷川 一敏(3A)

今年度より新事業の一つとして「三水会セミナー」が企画され、去る四月十五日北里本館大会議室で第一回

が開催された。第十九号の会報でお知らせしたように、「鮭鱒流通の問題点」をテーマに、同窓会有志の他、



企業の方にも声をかけ、また大学より水産病理学教室の小林、厚田両先生をお迎えし、総勢三〇名の参加がえられた。二A・大神雅史君が座長に選任されてセミナーが進められた。前身である「ギンザケ養殖を考える会」の過去二回の経過が取りまとめ報告された後、熱のこもった討論がなされたので、その概要を報告する。ここ三、四年海面養殖ギンザケ全体の生残率は六〇％以下に落ちている。ビタミン欠乏とも、ウイルス原因とも言われる肝臓障害によるものである。それに、昨年は養殖ものを含む輸入鮭鱒が豊富であったことも原因となり、前年度に比べ大幅に価格が下落し、赤字経営体が急増し、

業界はかつてない厳しい状況になっている。

一方、淡水の種苗生産者においても、作れば売れるという今までとは違い、種苗の生産過剰のため売れ残りがでてきている。ちなみに昨秋には生産量の一二％にあたる三六〇トンもが売れ残ってしまった、生産調整あるいは品質改善について真剣に取り組まねばならない状況にある。

ここ十年間で西日本のブリ、マダイ養殖に匹敵する北日本の養殖魚種に成長してきたギンザケに大きな「カゲリ」が見え始めた。昨年の業界紙の見出しを借りて言えば「ドロ沼市況にあえぐ養殖ギンザケ産地」と末期的段階にあるとも言える。集約された問題について二、三述べる。

### 一、生産物の品質を早急に改善すること

養殖サケの試食会で出席者の大多数から好評をえたのは天然の大目(シロザケのトキシラズ)とノルウェー産養殖スチールヘッドであった。両者とも筋肉内の脂質含量は六％以下と低い。成長のみを追求する生餌主体の飽食飼育を即刻中止しなければ、消費者からは見離され、価格の低迷が続くだろう。

### 二、種卵輸入を再検討すること



昨年と今年の計四回、米国ワシントン州の河川へ回帰したギンザケ親魚等から、従来存在が知られていなかったVHSウイルスが検出された。それが卵を介して我が国へ導入される危険性は極めて高い。政府の強い姿勢が望まれるが、業界も十分監視の目を光らせることが必要である。また、必要以上に種卵を輸入することが、ギンザケ業界を混乱の淵に追い込んでいくことも確かである。

### 三、ブランド品を作ること

高品質のギンザケを作り、ブランド品としての地位を獲得しようとする努力している人が各地に散在している。しかし少量の製品では大量の不良品？

の流れに押し流されて、正当な評価が得られないのがギンザケ流通の実態である。地域全体が同じ高品質のものを量産することがブランド化への第一歩である。業者は「作ったから売る」のではなく「売れる商品」、あるいは付加価値をつけた加工品の生産に転進することが必要である。流通関係の人達はそれをブランド品として伸ばすため積極的に協力する姿勢がほしい。また、生産から流通まで、多方面に広がっている有志の面々、この厳しい極面を互いの協力で乗り切ろうではないか。

本セミナーの議事録は間もなく印刷される。希望者は三水会事務局に申し込みれば入手できます。最後に、三回にわたる延べ二〇名の参加により種々検討された「ギンザケ養殖の現状と問題点」は内容の濃いものになったと考えている。有志の間からこの成果を世に出してはとの意見が出され、現在、出版の方向で検討している。会員諸兄のご協力をお願いして筆を置く。

尚、「ギンザケ養殖を考える会」の運営にご尽力戴きました、5A・大坪賢司氏は、本年七月二十三日、心不全のため永眠されました。謹んで哀悼の意を表します。

# 北里大学水産学部

## 「ラグビー部OB会発足」

ラグビー部OB会事務局長 成田昌明

去る五月三日、東京渋谷東急インに於いて、松浦文雄北里学園理事並びに長屋信博三水会会長にご出席頂き、ラグビー部OB二名、現役二名、総勢三十五名の参加のもと、「北里大学水産学部ラグビー部OB会発足会」を第一回総会を開催、無事終了しその一歩を踏み出しました。

数年前、有志らによるOB名簿作成から地道に始まった活動が、今年



〈松浦理事OB会顧問〉

に入って急激に勢いを増し、その蓄積されたエネルギーが爆発したようなそんなOB会発足会でした。

初代ラグビー部々長として何かとお世話になった松浦理事をお訪ねし、ラグビー部OB会顧問への就任をお願いし、また、三水会事務局にいろいろと相談させて頂くと共に、長屋会長の発足会出席とのご配慮も頂くこととなりました。

午後四時より開催された総会は、司会 前川精志氏の開会宣言に続き、松浦理事よりラグビー部との関わりやOB会への励ましのお言葉を頂きました。続く議事では、一、OB会規約及び議事規則、二、役員を選出、三、平成二年度事業計画(案)及び予算(案)四、OB会費の各案について討議、承認されました。

OB会の設立目的は、「水産学部ラグビー部OBの総意に基づき、同部OB相互への親睦を図り、現役の指導援助をもって同部の進歩発展に寄与すること」であり、役員には、顧問に松浦理事、会長に三枝雅彦(第

一期)、副会長に岡田伸(第二期)、監事に横山茂(第四期)・前川精志(第五期)事務局長に成田昌明(第四期)が選任されました。

総会後の懇親会では、ラグビー部初代主将であり今回会長に選任された三枝雅彦氏の挨拶、長屋三水会会長の挨拶を頂き、OB会副会長に選任された岡田伸氏の乾杯の音頭と共に、参加者全員のボルテージは最高潮に達しました。

OB会設立にあたり、賛同の意を表したOBは八〇名中、四四名でした。決して十分な数字とは言えませんが、何事も「継続は力なり」を信じて、あくなき闘志とやり続けようとする強い意志で取り組んでいこうと意を新たにするものです。まだ参加されていないOB諸氏の数多くの参加をお願い致します。最後に、ラグビー部OB会のために紙面を割いて頂いた三水会に御礼申し上げますと共に、続々とOB会が結成されることを期待致します。

## 体育祭開催の報告

体育祭実行委員長 熊坂隆志(水産増殖学科三年)



〈OB会発足パーティー〉

事務局 〒134 東京都江戸川区船堀 一〇一〇八号

Tel 〇三六七五〇三九

OB会費振込み先 郵便振替口座

口座番号 東京1-543621

名称 北里大学水産学部 ラグビー

部OB会 事務局長 成田昌明



五月二十六、二十七日の両日体育祭が行われました。開会式の大場助教授の御挨拶の後、一齐に競技が開始されました。晴天の中、グラウンドではソフトボール、体育館ではドッ

キボールで熱い戦いが繰りひろげられました。今年は、一週間ほど前から練習をしているチームも多くみられ、かなりレベルの高い試合であったと思われまます。二日目はソフトボールの決勝、バレーボールと行われ、毎年一番白熱する棒立しでは、ラグビー部、ボディービル愛好会、野球部、アメリカンフットボール部、田中アパートなどの強豪チームが対戦しました。接戦の末、今年はラグビーの優勝となりました。今年は駅伝でもラグビー部が優勝し、ラグビー部の活躍が目立った大会でした。天候にも恵まれ、すべての競技を滞りなく消化することができ、とてもすばらしい大会であったと思います。閉会式では橋高教授にお言葉をいただき、体育祭は幕を閉じました。

## 「平成二年度三水会総会開催」

さる五月二十日(日)午前十一時より、白金校舎E号館三階会議室において、平成二年度本会通常総会を開催し、本年度の事業計画、予算等を審議、決定いたしました。総会は、代議員本人二六人、委任状出席一六

の計四二人の出席のもとに開催され、元年度事業報告、決算についての報告を受け、これを承認した後、会報の発行、セミナーの開催等と内容を平成二年度事業計画、予算案について審議を行い、原案どおりこれ

### 平成元年度収支決算

支出の部			収入の部		
科目	予算	決算	科目	予算	決算
1. 事業費	3,100,000	3,097,667	1. 部会助成金	4,290,112	4,290,112
(1)会報発行費	920,000	1,001,570	2. 預金利息	30,000	39,887
(2)学部だより配布費	300,000	374,693	3. 前年度繰越金	828,755	828,755
(3)同期会等助成費	100,000	30,000	4. 雑収入	100,000	172,000
(4)講演会費	80,000	82,891	5. 1~7期生終身会費	100,000	90,000
(5)観聴会費	1,000,000	939,154			
(6)大学・学生との懇談会費	250,000	279,559			
(7)学友会助成費	250,000	150,000			
(8)就職ガイダンス費	70,000	139,800			
(9)徳島商種遺児育英会寄付	100,000	100,000			
2. 運営費	1,940,000	1,584,462			
(1)印刷・通信費	440,000	360,242			
(2)会議費	450,000	340,772			
(3)総会費	250,000	142,890			
(4)事務局費	650,000	603,118			
(5)慶弔費	50,000	45,000			
(6)渉外費	100,000	92,440			
3. 予備費	308,867	738,625			
(1)予備費支出	-	-			
(2)次期繰越金	-	738,625			
合計	5,348,867	5,420,754	合計	5,348,867	5,420,754

を承認しました。総会において承認された昨年度の決算・事業報告、本年度の事業計画・予算は次のとおりです。

### 平成元年度事業報告

1、会報の発行  
同窓生の動向、学部の現況、各種の情報等を内容とした会報を平成

2、「水産学部だより」の配布  
元年九月と平成二三年三月の二回発行した。  
本学水産学部の発行する「水産学部だより」を増刷し、全会員に配布した。

3、会員の現況の把握  
全学同窓会と連携し、事務局を中心に不明会員の調査等を行い、名簿情報の正確性の向上に努めた。

平成二年度収支予算

90.5.20

支出の部		収入の部	
科目	予算額	科目	予算額
1. 事業費	2,910,000	1. 部会助成金	3,973,401
(1)会報発行費	1,000,000	2. 前年度繰越金	738,625
(2)学部だより配布費	360,000	3. 預金利息	130,000
(3)同期会等助成費	100,000	4. 雑収入	200,000
(4)セミナー開催費	230,000	5. 1～7期生終身会費	100,000
(5)親睦会費	650,000		
(6)大学・学生との懇談会費	150,000		
(7)校友会助成費	250,000		
(8)就職ガイダンス費	70,000		
(9)漁船海難遺児育英会寄付	100,000		
2. 運営費	2,030,000		
(1)印刷・通信費	430,000		
(2)会議費	450,000		
(3)総会費	300,000		
(4)事務局費	700,000		
(5)慶弔費	50,000		
(6)渉外費	100,000		
3. 予備費	202,026		
合計	5,142,026	合計	5,142,026

また、全学同窓会が開発した名簿管理用パソコンシステムの活用に努めた。

4、同期会等の助成  
申請のあった職域懇談会の費用の一部を助成した。

5、講演会の開催  
平成元年五月に佐藤美和教授に協力願い、学術的な発表、大学の現況等についての講演会を白金校舎

にて開催した。

6、親睦会の開催  
会員を対象とした親睦会を白金校舎、山梨県、北海道にて開催した。

7、懇談会の開催  
大学、水産学部在学生との懇談会を三陸にて開催し意見交換を行った。

8、校友会助成  
大学祭、体育祭費用の一部を助成

9、就職ガイダンスの開催  
卒業生による就職ガイダンスを水産学部生を対象に三陸校舎にて行った。

10、漁船海難遺児育英会寄付  
漁船海難等により親を亡くした子弟に学費の援助を行っている漁船海難遺児育英会に対し寄付を行った。

平成二年度事業計画

1、会報の発行  
同窓生の動向、学部の現況、各種の情報等を内容とした会報を二回発行する。

2、「水産学部だより」の配布  
本学水産学部の発行する「水産学部だより」を増刷し、全会員に配布する。

3、会員の現況の把握  
全学同窓会と連携し、不明会員の調査等名簿情報の正確性の向上に努める。

4、同期会等の助成  
同期会、講座別同窓会等卒業生の集会の費用の一部を助成する。

5、三水会セミナーの開催  
水産を問わず様々なテーマをとり

あげ、これに関連する職域の会員を対象としたセミナー形式の会を開催する。本年度は第一回目として、「鮭鱒流通の問題点」をテーマに開催する。

6、親睦会の開催  
関東地区会員を主な対象とした親睦会並びに水産物の市場流通に関連する職域の会員を対象とした親睦会を開催する。

7、懇談会の開催  
大学、水産学部在学生との懇談会を開催し意見交換を行う。

8、校友会助成  
クラブ活動費および大学祭、体育祭費用の一部を助成する。

9、就職ガイダンスの開催  
各分野の卒業生による就職ガイダンスを水産学部生を対象に三陸校舎にて行なう。

10、漁船海難遺児育英会寄付  
漁船海難等により親を亡くした子弟に学費の援助を行っている漁船海難遺児育英会に対し寄付を行う。

## 三水会代議員の改選について 一代議員推薦のお願い

昨年度の総会で選任された本会代議員・役員の任期は、平成3年度末までとなっておりますが、同窓会より選出される大学評議員の任期との関係等からこの任期を変更し、本年度末までとすることが、5月20日開催の全学同窓会総会並びに本会総会において決定されました。

このことから、来年度総会において、新代議員・役員の改選を行うこととなりました。つきましては、代議員の推薦（自薦、他薦）を下記により受け付けますので、同封の葉書に、氏名、卒業年度、学科、卒論講座名、住所、電話番号、他薦の場合は推薦者名をご記入のうえ、事務局あてお送りください。

代議員資格：三水会正会員 推薦期限：平成3年3月31日

## 事務局よりのお知らせ

### 市場・流通関係会員親睦会の開催

毎年度開催しております、「地方・職域親睦会」として本年度は、関東地区の市場・流通関係会員を主な対象とした親睦会を11月上旬に開催いたします。現在企画を進めておりますので、内容が決まり次第、関係の方には別途ご案内いたします。

なお、ご案内は同窓会名簿等を参考に10月上旬頃出状させていただきます。

詳しくは、事務局にお問い合わせください。

### 通信販売主の募集について

貴方の会社の製品を、三水会会報誌上で通信販売してみませんか。

三水会では会報に掲載する通信販売主を募集します。

詳細については三水会事務局までお問い合わせください。

### 同期会等の助成について

水産学部卒業生の集会について費用の一部を助成します。

10名以上の集会について、一人当たり1,000円(上限30,000円)を助成します。

詳細については三水会事務局までお問い合わせください。

三水会事務局 〒246 横浜市瀬谷区瀬谷5-22-1 (石井方)  
☎045-303-3135

## カンパのお願い

水産食品学科11回卒の雨沢 悟君が、5月29日夜半、帰宅途中の千葉県松戸市で交通事故のため亡くなりました。後方から来た無謀な車を回避するために急ブレーキをかけ、対向車のライトパンと正面衝突し、病院での介護も空しく帰らぬ人となりました。彼には2歳になる長男と、今年生れたばかりの次男があり、一家の大黒柱を失ったご遺族のご心中を察すると、筆舌に尽くすことができません。学生時代に人望のあった彼の別れに際し、葬儀当日は日本全国から大勢の人がかけつけ、「せめてご遺族の方々にカンパを集めよう」と声があがりました。この度、三水会会報の紙面をお借りして下記によりカンパ募集のお願いをいたします。皆様の御志をお寄せいただきたく存じます。

一 口：1,000円

振込郵便口座：口座番号 10030-47982221 口座名義 植木 将夫

連絡先：植木 将夫 〒194 町田市小山町2589 クレジオ小山202

☎0427-79-3489

## 訃報

5月29日、水産食品学科11回卒雨沢 悟君が交通事故のため亡くなりました。ここに慎んでご冥福をお祈りいたします。

7月23日、水産増殖学科5回卒大坪賢司君が心不全のため亡くなりました。ここに慎んでご冥福をお祈りいたします。

## 「三陸の味」通信販売のお知らせ

### 「三水会オリジナルギフト」

食欲の秋に、三陸沿岸の獲れたての海の幸をご賞味ください。また、ご贈答にもご利用ください。

到着日を指定できますので、同封の葉書で三水会事務局までお申込みください。なお、申込み葉書到着後、発送までに1週間程度を要します。

品名	値段	内容	発送可能時期
1. 「刺身用 銀鮭」 越喜来湾でイワシを使わずのびのびと育てた健康な銀鮭を3枚におおしてピチットシートで包み、-40℃以下で凍結した特注品です。お刺身はもちろん、バター焼き、ムニエルフライ等、用途も広く便利です。	5,000円 (送料込み)	銀鮭3枚おろし 1尾分 約2kg	9～10月
2. 「刺身用特大生さんま」 獲れたての特大生さんまを気仙沼より直送。	4,500円 (送料込み)	生さんま 20尾	9～10月
3. 「気仙沼の味 お刺身セット」 近海生ばちまぐろ (200g) 2さく 〃 生かじきまぐろ (200g) 2さく 〃 生あいか (300g) 1さく	6,500円 (送料込み)		10～11月